

据付工事説明書 試運転編

パッケージエアコン <ビル用マルチエアコン>

冷媒R410A使用

室外ユニット品番 CU-P112UL4 CU-P112UL4E CU-P112UL4J
CU-P140UL4 CU-P140UL4E CU-P140UL4J
CU-P160UL4 CU-P160UL4E CU-P160UL4J

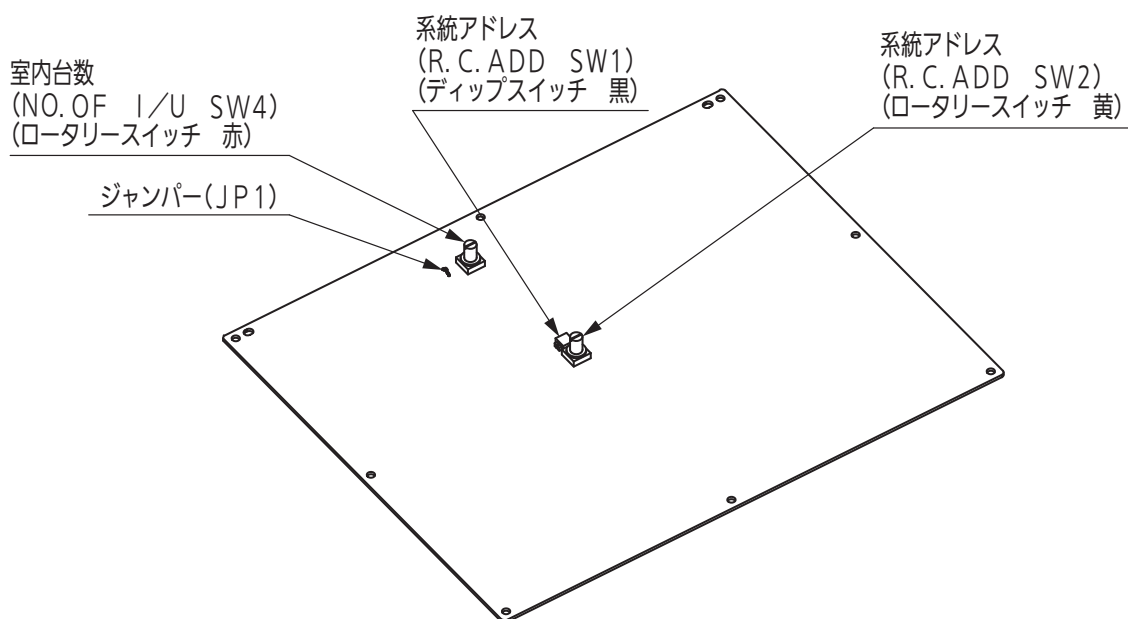
- 「据付工事説明書」「据付工事説明書 電気工事編」「据付工事説明書 試運転編」をよくお読みのうえ、正しく安全に据え付けてください。
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
- 「据付工事説明書」「据付工事説明書 電気工事編」「据付工事説明書 試運転編」は、「取扱説明書」とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。
- 既設配管使用の場合は、**1. 注意事項** <既設配管再利用の場合>をお読みください。

1. 注意事項

- 手元電源スイッチは、クランクケースヒーターに通電するため、試運転を行う5時間以上前に入れてください。
- 現地接続配管のリーク検査、真空引き、冷媒チャージ後、室外サービスバルブは全開にしてください。
- 試運転はお客様に立ち合いをお願いしてください。
そして、“取扱説明書”を説明した上で、実際に操作していただってください。
- “取扱説明書”、“保証書”は必ずお客様にお渡しください。
- コントロール基板の交換時には必ず交換前の各設定に合わせてください。

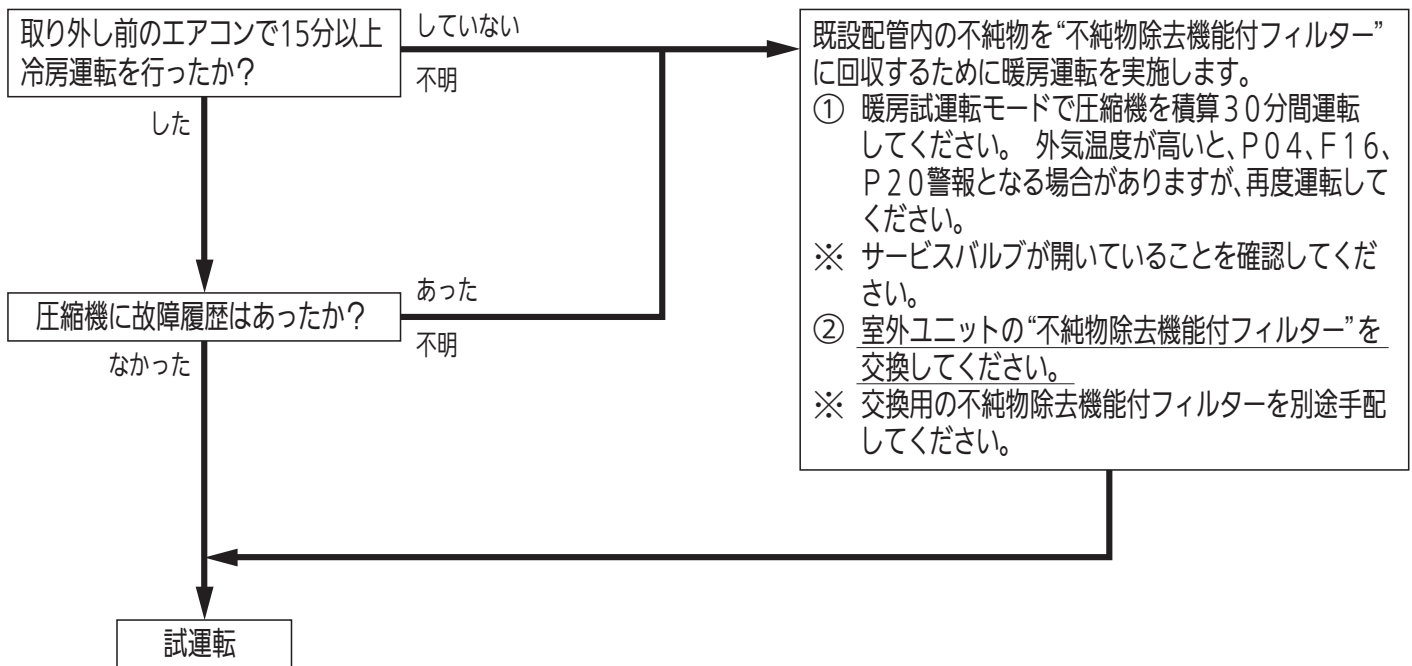
<既設配管再利用の場合>

- R22、R407C冷媒をご使用になっていた配管を再利用（既設配管）する場合は、試運転開始前に必ず電源OFFの状態ですべての室外ユニットコントロール基板のジャンパー（JP1）をカットしてください。



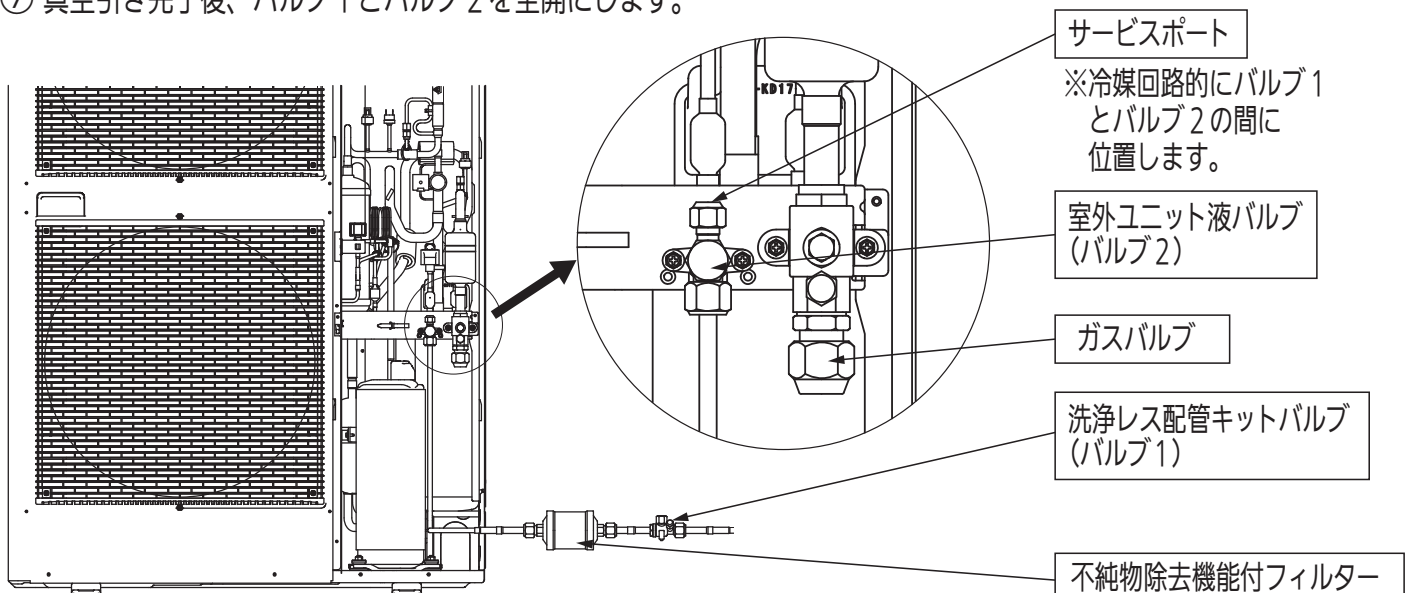
<既設配管再利用の場合> (つづき)

- 既設配管の正確な配管長・配管サイズが不明な場合、冷媒量の調整（システム総冷媒量が9kg以下の範囲）が必要です。また取り外し前のユニットの状態により、“不純物除去機能付フィルター”を交換する必要があります。試運転を行う前に下記のフローに従って作業を行ってください。



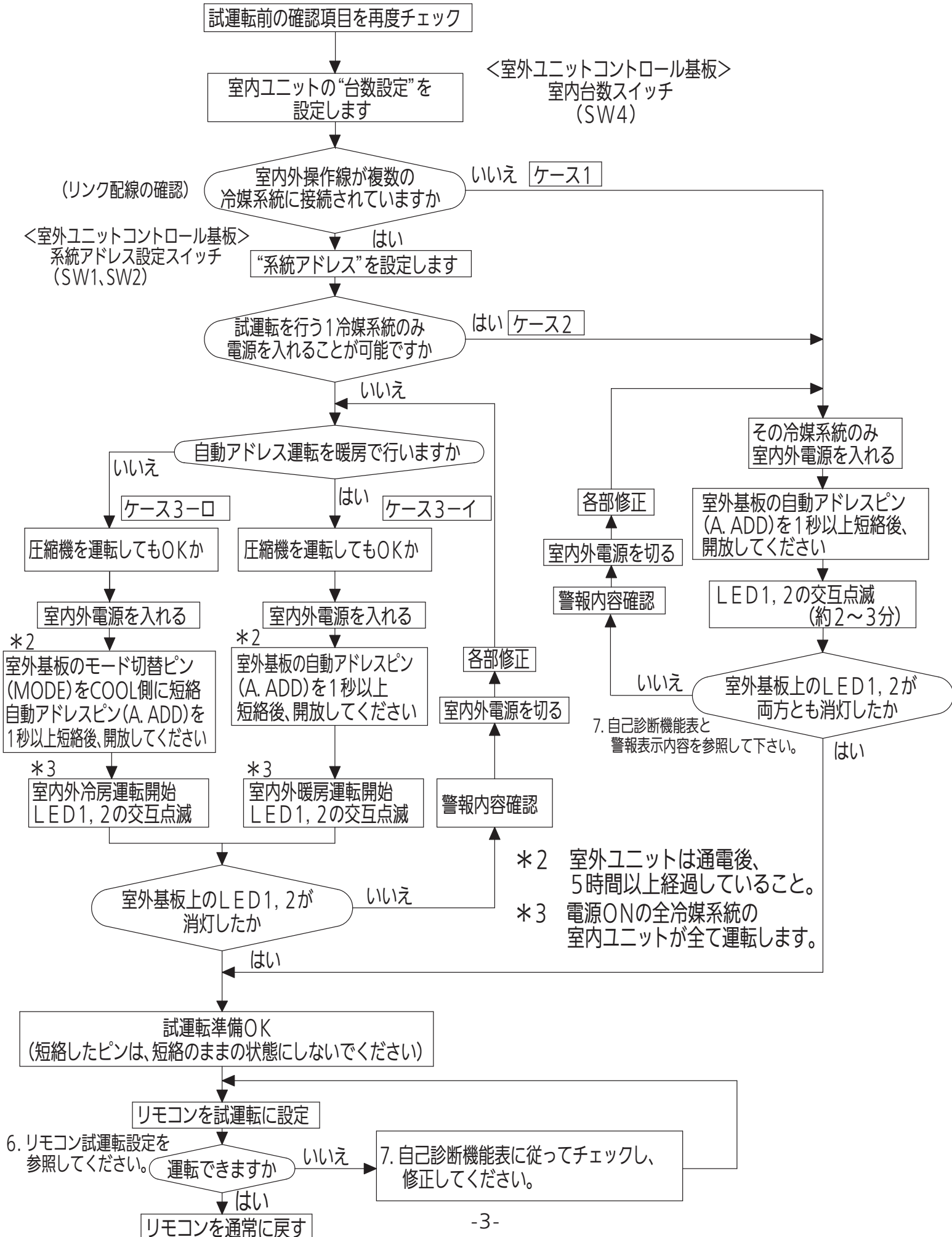
不純物除去機能付フィルター交換

- ① 暖房運転中にバルブ1→バルブ2の順に全閉にします。
※ この作業はバルブ1とバルブ2の間の配管内の冷媒を追い出すために行います。2個のバルブを全閉にする間隔は4～5秒程度です。
- ② 運転を停止します。
- ③ ①の作業後もバルブ1とバルブ2の間の配管内に若干冷媒が残ることもありますので、バルブ2のサービスポートに冷媒回収機を接続し、配管内の冷媒を回収します。
- ④ “不純物除去機能付フィルター”を交換します。
※ 交換用の不純物除去機能付フィルターを別途手配してください。
(サービス部品コード：CV6231791458)
- ⑤ バルブ2のサービスポートより、窒素ガスで気密試験圧力3.3MPaGまで上げ、バルブ1とバルブ2の間の漏れがないことを確認してください。このとき、バルブ1とバルブ2は全閉のままです。
- ⑥ バルブ2のサービスポートより、バルブ1とバルブ2の間の真空引きを行います。
(ゲージ圧力 -101kPa [5Torr] 以下)
- ⑦ 真空引き完了後、バルブ1とバルブ2を全開にします。



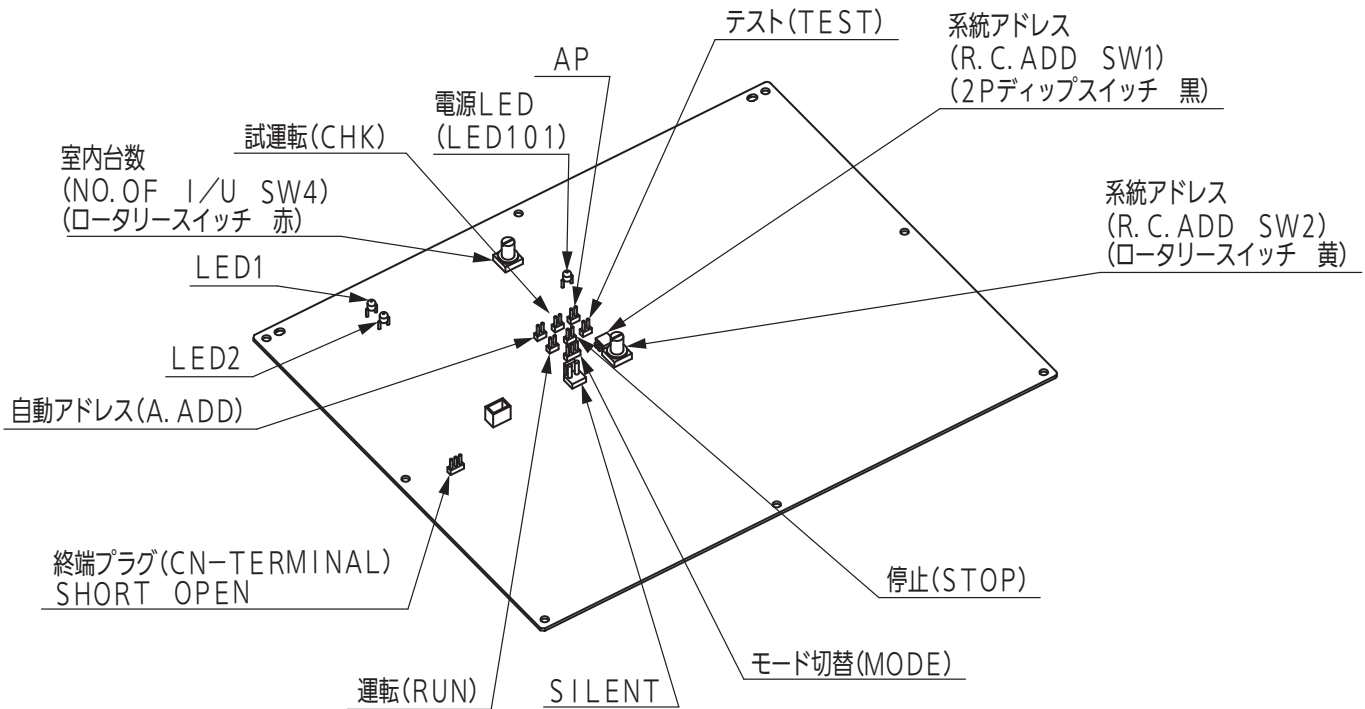
2. 試運転手順

- 系統アドレスが重複したり、室内ユニットの台数設定が合わないと警報となり運転しませんので設定には注意してください。
- 室内ユニットの基板上での設定はありません。



3. 室外ユニットコントロール基板の設定

図1



● 室内ユニットの台数設定例

室内ユニットの台数	室内台数設定(SW4) (ロータリースイッチ赤)
1台(工場出荷時)	設定1
2台	設定2
⋮	⋮
9台	設定9

*室内ユニットの接続台数は、
112形:2~6台、140形:2~8台、160形:2~9台です。

● 系統アドレス設定例(リンク配線している場合に必要です)

系統アドレス 番号	系統アドレス(SW1) (2Pディップスイッチ黒)	系統アドレス(SW2) (ロータリースイッチ黄)
1系統 (工場出荷時)	両方共OFF	設定1
11系統	1がON	設定1
21系統	2がON	設定1
30系統	1と2がON	設定0

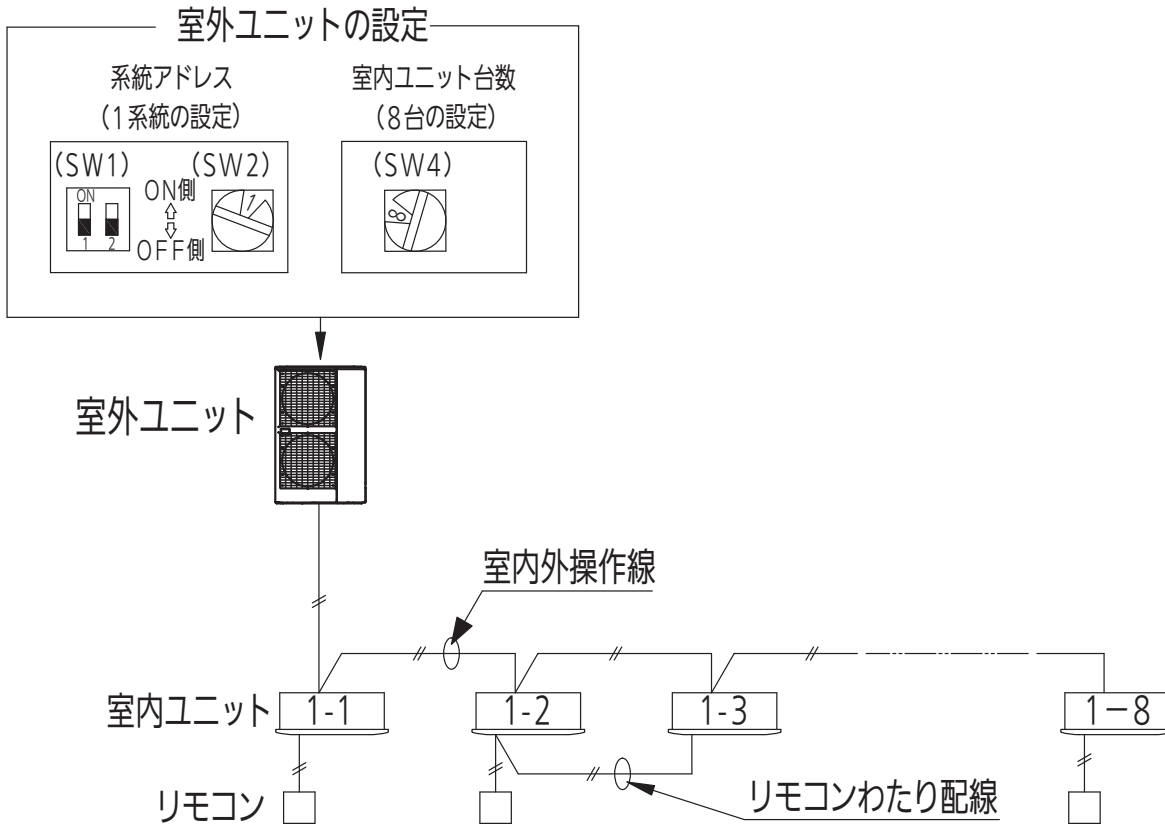
4. 基板上的各スイッチ類の概要説明

<室外ユニットコントロール基板上的各スイッチ類の概要説明>

- ・モード切替ピン(3P, 黒): 運転モード(冷房・暖房)を切替えます。
(MODE) 通常運転時: 短絡する度に同一系統の室内ユニットの運転状態は全冷房または全暖房に切替わります。
自動アドレス時: 開放状態で暖房モードになります。
- ・自動アドレスピン(2P, 黒): 1秒以上短絡→開放で自動アドレスを開始します。
(A, ADD) また、自動アドレス中に1秒以上短絡すると自動アドレスが中断されます。
- ・試運転ピン(2P, 黒): 短絡状態にすると、試運転モードになります。(試運転モードは1時間で自動解除されます)
(CHK) また、短絡を解除すると試運転モードは解除になります。
- ・運転ピン(2P, 黒): 短絡してパルス信号を与えると、同一系統内の全室内ユニットが運転します。
(RUN)
- ・停止ピン(2P, 黒): 短絡してパルス信号を与えると、同一系統内の全室内ユニットが停止します。
(STOP) (短絡状態にすると室内ユニットリモコンからは運転をかけられません。)
- ・APピン(2P, 黒): 室外ユニットの真空引きをおこなう時に使用します。
(AP)
- ・テスト(2P, 黒): 工場での基板検査用のピンです。
(TEST)
- ・SILENTソケット(2P, 白): 室外FANの静音モードを設定する場合に使用します。
(CN-SILENT)

5. 自動アドレス設定方法

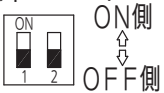
基本配線図 例(1) ●リンク配線されていない場合
 (室内外操作線が複数の冷媒系統に接続されていない場合)
 圧縮機を運転せずに室内ユニットアドレスの設定ができます。



ケース1

室外ユニットから自動アドレスの操作をする方法

1. 室外ユニットコントロール基板の系統アドレス設定ロータリスイッチ(SW2)は「1」ディップスイッチ(SW1)は、「0」の設定であること(工場出荷時の設定)を確認してください。



2. 室外ユニットに接続されている室内ユニットの台数を「8」に設定するには、室外ユニットコントロール基板の室内ユニット台数設定ロータリスイッチ(SW4)を「8」に設定します。



3. 室内外ユニットの電源をONにします。

4. 室外ユニットコントロール基板の自動アドレスピン(A. ADD)を1秒間以上短絡後、開放してください。

(自動アドレス設定の通信が始まります。)

*中断したい場合は再度自動アドレスピン(A. ADD)を1秒間以上短絡後、開放してください。
 自動アドレス中を示すLEDが消灯し中断します。必ず再度自動アドレス設定を行ってください。
 (室外ユニットコントロール基板上のLED1, 2が消灯すると自動アドレス設定が完了します。)

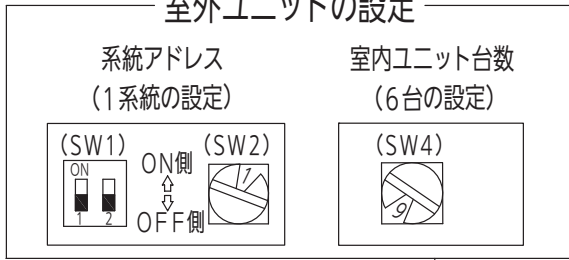
5. リモコンからの運転が可能になります。

*リモコンから自動アドレス設定する場合は、3. の後にリモコンで自動アドレスの操作を行います。

● **リモコンからの自動アドレス設定方法** を参照してください。

<1冷媒系統>

室外ユニットの設定



室外ユニット
1系統

終端プラグの短絡ソケット
はSHORT側

集中制御機器

室内外操作線

室内ユニット 1-1

1-2

1-3

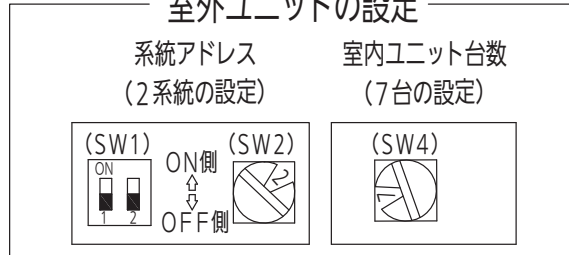
1-6

<2冷媒系統>

リモコン

リモコンわたり配線

室外ユニットの設定



室外ユニット
2系統

終端プラグの短絡ソケット
はOPEN側

室内外操作線

室内外操作線

室内ユニット 2-1

2-2

2-7

リモコン

リモコンわたり配線

室外ユニット
Z系統

終端プラグの短絡ソケット
はSHORT側

室内外操作線

Z系統室内ユニットへ


下記の各ケースに応じて設定の操作をしてください。(次頁以降を参照)

- 1系統毎に室内外ユニットの電源がONにできる場合。 → ケース2
- 1系統毎に室内外ユニットの電源がONにできない場合。
 - 暖房モードでの自動アドレス → ケース3-イ
 - 冷房モードでの自動アドレス → ケース3-ロ

ケース2

- 1系統毎に室内外ユニットの電源がONにできる場合。圧縮機を運転せずに室内ユニットアドレスの設定ができます。

室外ユニットから自動アドレスの操作をする方法

1. 室外ユニットコントロール基板上的の系統アドレスロータリスイッチ(SW2)は「1」、ディップスイッチ(SW1)は、「0」の設定であること(工場出荷時の設定)を確認してください。

2. 室外ユニットに接続されている室内ユニットの台数を「6」に設定するには、室外ユニットコントロール基板の室内ユニット(SW4)台数設定ロータリスイッチを「6」に設定します。
3. 室内外ユニットの電源を全てONにした室外ユニットの自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。

(自動アドレス設定の通信が始まります。)

*中断したい場合は再度自動アドレスピン(A. ADD)を1秒間以上短絡後、開放してください。自動アドレス中を示すLED1, 2が消灯し中断します。必ず再度自動アドレス設定を行ってください。

(室外ユニットコントロール基板上的のLED1, 2が消灯すると自動アドレス設定が完了します。)

4. 次に他の系統の室内外ユニットのみ電源をONにして、同様に1～3の操作を繰り返して各系統毎の自動アドレス設定を完了してください。

5. リモコンからの運転が可能になります。

*リモコンから自動アドレス設定する場合は、2. の後にリモコンで自動アドレスの操作を行います。

- **リモコンからの自動アドレス設定方法** を参照してください。

ケース3-イ (暖房モードでの自動アドレス)

- 1系統毎に室内外ユニットの電源がONにできない場合。圧縮機を運転しないと室内ユニットアドレスの自動設定ができませんので、冷媒配管工事を完了してから行ってください。

室外ユニットから自動アドレスの操作をする方法

1. **ケース2** の手順1～2と同様に全ての設定を行ってください。
 2. 全系統の室内外ユニットの電源をONにしてください。
- ↓
3. 自動アドレス設定を **暖房モード** で行いたい場合は自動アドレス設定をしたい冷媒系統の室外ユニットコントロール基板上的の自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。
(必ず1系統毎に行ってください。複数系統を同時に自動アドレス設定は出来ません)

(自動アドレス設定の通信が始まり、圧縮機がONし暖房モードでの自動アドレスを開始します。 (全ての室内ユニットも運転状態になります。))

*中断したい場合は再度自動アドレスピン(A. ADD)を1秒間以上短絡後、開放してください。自動アドレス中を示すLED1, 2が消灯し中断します。必ず再度自動アドレス設定を行ってください。

(圧縮機が停止し室外ユニットコントロール基板上的のLED1, 2が消灯すると自動アドレス設定が完了します。)

4. 他の系統の室外ユニットの自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。

(同様の操作を繰り返して全ユニットの自動アドレス設定を完了させてください。)

5. リモコンからの運転が可能になります。

*リモコンから自動アドレス設定する場合は、2. の後にリモコンで自動アドレスの操作を行います。

- **リモコンからの自動アドレス設定方法** を参照してください。

ケース3-0 (冷房モードでの自動アドレス)

- 1系統毎に室内外ユニットの電源がONにできない場合。

圧縮機を運転しないと室内ユニットアドレスの自動設定ができませんので冷媒配管工事を行ってください。
*冷房モードでの自動アドレス設定が可能です。

室外ユニットから自動アドレスの操作をする方法

1. ケース2 の手順1～2と同様に全ての設定を行ってください。
2. 全系統の室内外ユニットの電源をONにしてください。



3. 自動アドレス設定を「冷房モード」で行ないたい場合は自動アドレス設定をしたい冷媒系統の室外ユニットコントロール基板上のモード切替3Pピン(MODE)を冷房側で短絡したまま自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。(必ず1系統毎で、複数系統を同時に自動アドレス設定はできません。)



(自動アドレス設定の通信が始まり、圧縮機がONし冷房モードでの自動アドレスを開始します。)
(全ての室内ユニットも運転状態になります。)



*中断したい場合は再度自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。



自動アドレス中を示すLED1, 2が消灯し中断します。必ず再度自動アドレス設定を行ってください。

(圧縮機が停止し室外ユニットコントロール基板上のLED1, 2が消灯すると自動アドレス設定が完了します。)



4. 他の系統の室外ユニットの自動アドレスピン(A. ADD)を1秒以上短絡後、開放してください。



(同様の操作を繰り返して全ユニットの自動アドレス設定を完了させてください。)



5. リモコンからの運転が可能になります。

*リモコンから冷房モードで自動アドレスすることはできません。

リモコンからの自動アドレス設定方法

- 冷媒系統ごとに個別選択して自動アドレスを行う場合

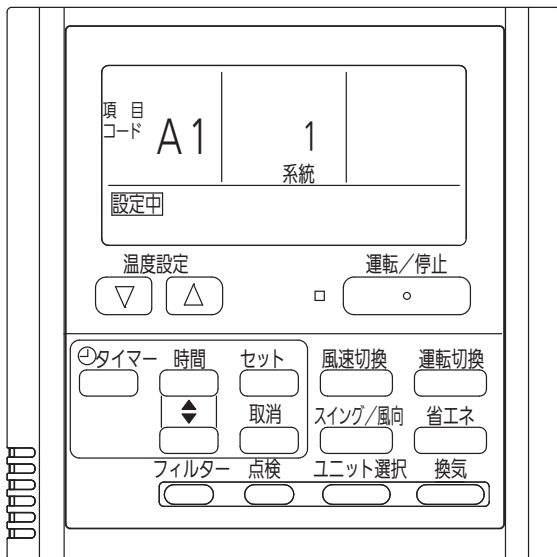
<CZ-10RT3の操作>

1. リモコンの時間 **▲** ボタン + **点検** ボタンを同時に押します。(4秒以上)
↓
2. 次に温度設定 **▲** / **▼** ボタンのどちらかを押してください。(項目コード“A1”を選択して下さい)
↓
3. 自動アドレスしたい系統No.を **ユニット選択** ボタンを選択し、**セット** ボタンを押します。
(1系統を表示し、1冷媒系統の自動アドレス設定を行います。)
1系統の自動アドレスが終わると通常の停止に戻ります。

<約4分から5分かかります。>

(自動アドレス中は、リモコンに **設定中** と点滅表示し、完了時には消灯します。)

4. 同様の操作を繰り返して各系統の自動アドレス設定を行います。

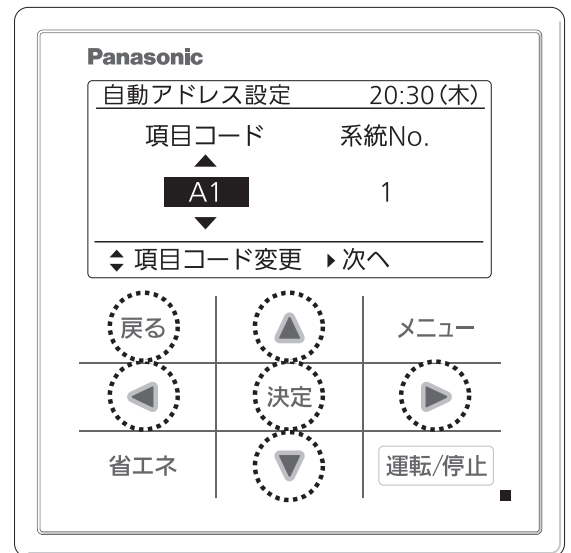


<CZ-10RT4シリーズの操作>

1. リモコンの **戻る** + **決定** + **▶** を同時に4秒以上押します。
メンテナンス機能画面が表示されます。
↓
2. **▼** **▲** で選択、**◀** **▶** でページが切り替わります。「9.自動アドレス設定」を選択し、**決定** を押してください。
▼ **▲** で項目コード:A1を選択し、**▶** を押してください。
↓
3. **▼** **▲** で自動アドレスしたい系統No.を選択し、**決定** を押してください。

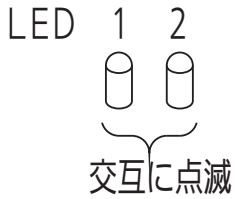
(自動アドレスが開始され、リモコンに「設定中」と点滅表示します。「設定中」が消灯したら設定完了となり、再起動します。)

4. 同様の操作を繰り返して各系統の自動アドレス設定を行います。



自動アドレス設定中の表示

● 室外ユニットコントロール基板上



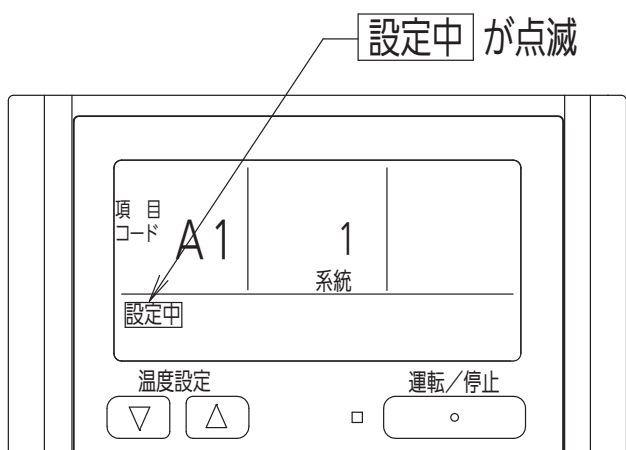
- *自動アドレス設定中に再度、自動アドレスピン（A. ADD）を短絡しないでください。LED1, 2が消灯し設定動作が中断します。
- *自動アドレスが正常終了するとLED1, 2が両方とも消灯します。その他の場合は、下表を参考に修正し、再度、自動アドレスの操作を行ってください。

● 室外ユニットコントロール基板上のLED1, 2の表示内容について (☀ : 点灯 ☼ : 点滅 ● : 消灯)

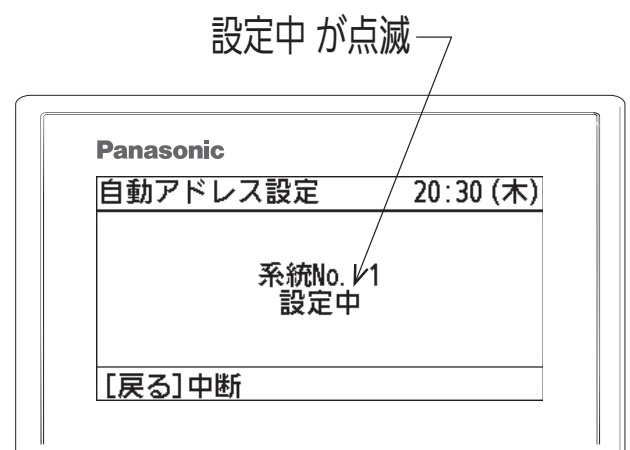
LED1	LED2	表 示 内 容
☀	☀	電源投入後（自動アドレス中ではない）、自分の系統の室内ユニットと全く通信ができない。
●	☀	電源投入後（自動アドレス中ではない）、自分の系統の室内ユニットを1台以上認識しているが、室内ユニット台数が設定台数と一致していない。 室内アドレス「13」以上の室内ユニットが接続されている。
☼ 交	☼ 互	自動アドレス中。
●	●	自動アドレスが完了した。
☼ 同	☼ 時	室内ユニット台数が設定台数と一致していない。（自動アドレス時） “点検”（室内ユニット運転時）
☼ 交	☼ 互	項目7. 自己診断機能表と警報表示内容を参照

● リモコンの表示部

<CZ-10RT3>



<CZ-10RT4シリーズ>



室内外ユニットの組み合わせ番号を表示(記入)のお願い 自動アドレス完了後表示(記入)してください。

複数台設置される場合、個々の室内ユニットの組み合わせが確認しやすいよう、油性マジック等の消えにくいもので、室内ユニットの対応番号を室外ユニットコントロール基板の系統アドレス番号と対応させ室内ユニットの確認しやすい場所(室内ユニットのネームプレート近傍)に表示してください。
(例) (室外) 1-(室内) 1, 2・・・
メンテナンス時に必要となります。必ず表示するようにしてください。

室内ユニットのアドレス確認

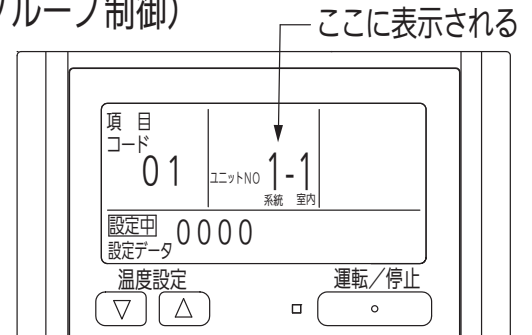
リモコンで室内ユニットのアドレスを確認してください。

<CZ-10RT3 の操作>

1. **点検** ボタン + **換気** ボタンを4秒以上押してください。(簡単設定モード)
2. リモコンに接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

ユニット選択 ボタンで室内アドレスを選択すると、選択された室内ユニットのみファンが運転しますので、確認できます。

- リモコン1台に、室内ユニットが1台のみ接続されている場合
(例:系統アドレスが1系統の場合、**ユニット選択** ボタンを押すごとに ALL、1-1、ALL … と表示が切り替ります。)
 - リモコン1台に、室内ユニットが複数台接続されている場合(グループ制御)
(例:系統アドレスが1系統の場合、**ユニット選択** ボタンを押すごとに ALL、1-1、1-2、1-3、ALL、1-1、… と表示が切り替ります。)
3. 再度、**点検** ボタンを押すと通常のリモコンモードに戻ります。



<CZ-10RT4シリーズの操作>

1. リモコンの **戻る** + **決定** + **▶** を同時に4秒以上押します。メンテナンス機能画面が表示されます。

2. **▼** **▲** で選択、**▶** でページが切り替わります。

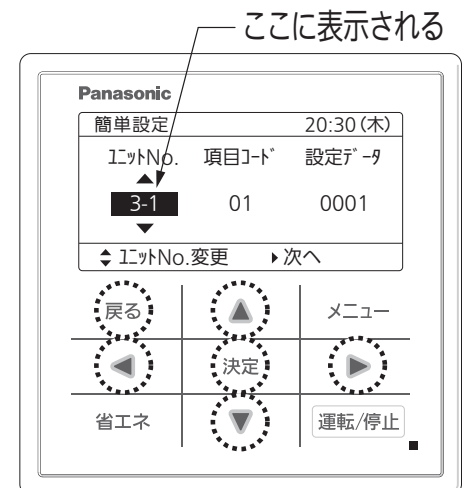
「7.簡単設定」を選択し、**決定** を押してください。

3. **▼** **▲** でユニットNo. を選択すると、選択された

室内ユニットのみファンが運転しますので、確認できます。

- リモコン1台に、室内ユニットが1台のみ接続されている場合
(例:系統アドレスが1系統の場合、**▲** ボタンを押すごとに ALL、1-1、ALL … と表示が切り替ります。)
- リモコン1台に、室内ユニットが複数台接続されている場合(グループ制御)
(例:系統アドレスが1系統の場合、**▲** ボタンを押すごとに ALL、1-1、1-2、1-3、ALL、1-1、… と表示が切り替ります。)

4. 室内ユニットのアドレス確認が終わったら、**戻る** を押し、再起動: “はい” を選択し、**決定** を押してください。



詳細については、室内ユニットの据付工事説明書 試運転編を参照してください。

6. リモコン試運転設定

<CZ-10RT3の場合>

- リモコンの **点検** ボタンを4秒以上押してから、**運転/停止** ボタンを押してください。
 - 試運転中は液晶表示部に“試運転”と表示されます。
 - “試運転”モードでは温度調節はできません。
(機器に無理がかかりますので試運転時以外は使用しないでください。)
- “試運転”は暖房、冷房、送風のいずれかの運転モードでご使用ください。
(注)電源投入後、および運転停止後は約3分間は室外ユニットは運転しません。
- 正常に運転できない場合には、リモコン液晶表示部に記号表示されます。
(7. 自己診断機能表を参照して修正してください。)
- 試運転終了後は再度 **点検** ボタンを押して液晶表示部の“試運転”の表示が消灯することを確認してください。

<CZ-10RT4シリーズの場合>

- リモコンの **戻る** + **決定** + **▶** を同時に4秒以上押して、メンテナンス機能画面から試運転設定を選択し、**▼** **▲** で試運転設定“オン”を選択し **決定** を押してから **運転/停止** ボタンを押してください。
 - 試運転中は液晶表示部に“試運転”と表示されます。
 - “試運転”モードでは温度調節はできません。
(機器に無理がかかりますので試運転時以外は使用しないでください。)
- “試運転”は暖房、冷房、送風のいずれかの運転モードでご使用ください。
(注)電源投入後、および運転停止後は約3分間は室外ユニットは運転しません。
- 正常に運転できない場合には、リモコン液晶表示部に記号表示されます。
(7. 自己診断機能表を参照して修正してください。)
- 試運転終了後は再度メンテナンス機能画面から試運転設定:オフを選び、**戻る** ボタンを押して液晶表示部の“試運転”の表示が消灯することを確認してください。

<共通>

*このリモコンは連続試運転を防止するために、60分タイマー試運転解除機能付になっています。

*ワイヤードリモコンの試運転は、カセット形の天井パネルを取り付けなくても運転可能です。(“P09”表示は出ません。)

*追加チャージする際は、必ず室外ユニットに添付されています「据付工事説明書」を参照してください。

7. 自己診断機能表と警報表示内容

- LED1, 2 警報表示の見方 (●:点滅)

LED1	LED2	表 示 内 容
●	●	警報を表示
交	互	LED1がM回点滅後、LED2がN回点滅。これを繰り返す。 M=2:P警報, 3:H警報, 4:E警報, 5:F警報, 6:L警報, N=警報番号の数 例)LED1が2回点滅後、LED2が3回点滅。これを繰り返す。 警報は“P3”となる。

自己診断機能表

- 自動アドレスが開始できない症状に対する原因と対処法

症 状	原因と対処法
● 室外コントロール基板上的電源LEDが点灯しない。	室外ユニットへの電源配線ミスまたは欠相がないか。
● 室外ユニット電源投入と同時に室外ユニットコントロール基板上的LED1, 2が消灯以外の状態となり、自動アドレスを受け付けない。	「警報表示内容」の表より確認し、修正して下さい。
● リモコンから自動アドレスを開始するとすぐに警報表示になる。	
● リモコンから自動アドレスを開始しようとしたが何も表示されない。	リモコン配線、室内外操作線が正しく接続されているか。 室内ユニット電源は入っているか。

● 自動アドレスは開始するが正常に終了できない症状に対する原因と対処法

症 状	原因と対処法
●自動アドレスを開始して数秒から数分後、リモコンに警報内容が表示される。	「警報表示内容」の表より確認し、修正してください。
●自動アドレスを開始して数分後(圧縮機が数回、運転、停止を行う場合もあり)、室外ユニットコントロール基板上的LED1, 2が自動アドレス設定中表示(交互点滅)を続けるが、LED1, 2が自動アドレス完了表示(消灯)しない。	「室外ユニットコントロール基板上的LED1, 2の警報内容」の表により警報内容を確認した後、「警報表示内容」の表より確認し、修正してください。

● 自動アドレス開始後、警報表示「E15」「E16」「E20」が表示された場合、以下のような事項を確認してください。

警報表示	警 報 内 容
E15	室外ユニット基板上的SW4スイッチで設定した室内ユニット台数より、自動アドレス時に認識できた室内ユニット台数が少ない。
E16	室外ユニット基板上的SW4スイッチで設定した室内ユニット台数より、自動アドレス時に認識できた室内ユニット台数が多い。
E20	自動アドレス開始後90秒以内に室内ユニットからのシリアル信号を室外ユニットが全く受信できなかった。

確 認 項 目	E15	E16	E20
室内ユニットの電源入れ忘れはないか。	○		○
室内外操作線は正しく接続されているか。(オープン、ショート、終端プラグ、リモコン端子への誤配線等の確認)	○	○	○
リモコン配線は正しく接続されているか。(オープン、ショート、室内外操作線端子への誤接続、グループ制御渡り配線等の確認)	○		○
室外ユニットコントロール基板上的SW4スイッチによる室内ユニット接続台数は正しく設定されているか。	○	○	
追加冷媒量は正しく行われているか。(圧縮機ON自動アドレス時)	○		
冷媒配管の接続は正しいか。(圧縮機ON自動アドレス時)	○	○	
室内ユニットE1, E3センサー異常はないか。(圧縮機ON自動アドレス時)	○		
手動もしくは誤った自動アドレス操作により、既に誤ってその系統のアドレスが設定された室内ユニットがないか。		○	

- 室外ユニットコントロール基板またはリモコンから自動アドレスを開始すると、室内外操作線およびリモコン配線が正常な室内ユニットでは、そのリモコンに「設定中」が表示されます。室外機コントロール基板のLED1, 2は交互点滅となります。
- 室内ユニットグループ制御時、リモコン渡り配線にミスがある場合、「設定中」表示はされても、アドレスが設定されないことがあります。
- 「E15」「E16」が表示されても、確認できた室内ユニットにはアドレスを設定します。設定されたアドレスはリモコンにより確認できます。(ページ11を参照してください。)

● 自動アドレス完了(室外ユニットコントロール基板上的LED1, 2が消灯)後にリモコンを操作したとき、以下の警報が出た場合は、下表に従い不具合箇所を修正してください。

リモコン表示	原 因
全く表示されない	リモコンが正しく接続されていない。(電源不良) 自動アドレス完了後、室内ユニットの電源が切られた。
E01	リモコンが正しく接続されていない。(リモコン受信不良) 誤って室内アドレスが未定の室内ユニットのリモコンを操作した場合。(室外ユニットと通信ができない)
E02	リモコンが正しく接続されていない。(リモコンから室内ユニットへの信号の送信不良)
P09	室内ユニット天井パネルのコネクタが正しく接続されていない。

上記表示以外の表示がでる場合は、ページ14「●リモコンの警報表示内容」を参照してください。

● リモコン上の警報表示内容

リモコン上では、室外ユニットコントロール基板上の警報表示内容の他に以下の警報内容があります。

ワイヤード リモコン表示	検 出 内 容	
<E01>	リモコンが室内からの信号の異常を検出	・リモコンの受信不良 (グループ制御の場合は親ユニットからの信号)
<E02>		・室外ユニットコントロール基板上の系統アドレス、 室内ユニットアドレス、室内ユニットの個別/親/子 設定が未定(自動アドレス未完了)
<<E03>>	室内ユニットがリモコン(または集中制御機器)からのシリアル信号の受信不良	
E04	室内ユニットが室外ユニットコントロール基板からの信号の異常を検出	・シリアル信号の受信不良 ・室外ユニットの電源ON時に接続台数と設定台数の 不一致 (系統アドレスが「0」以外の場合)
E08	設 定 不 良	室内ユニットアドレス設定の重複
<<E09>>		リモコン親設定の重複
E18	グループ制御配線の室内ユニット通信異常	室内親ユニットが室内子ユニットからのシリアル信号の 受信不良
<<L02>>	設 定 不 良	マルチ室外ユニットに接続された室内ユニットがマルチ用でない
<L03>		グループ制御室内ユニットの親ユニット設定重複
L07		個別制御室内ユニットにグループ制御配線を接続した
L08		室内ユニットアドレス未設定
<<L09>>		室内ユニットの能力未設定
<<F01>>	室内ユニットサーミスター異常	熱交温度センサー E1
<<F03>>		熱交温度センサー E3
<<F10>>		吸込温度センサー
<<F11>>		吹出し温度センサー
<<P09>>	天井パネルの接続またはコネクタの接続不良	
<<P01>>	室内ユニット保護	送風機保護サーモ
<<P10>>		フロートスイッチ
<<P11>>		ドレンポンプ異常・ドレンポンプロック
<<P12>>		ファンインバーター保護機能動作
F29	室内コントロール基板上の不揮発性メモリIC(EEPROM)不良	

<< >>の警報表示の場合は他の室内ユニットの運転に影響しません。

< >の警報表示の場合は不具合の内容によって他の室内ユニットの運転に影響する場合としない場合があります。

- 室外ユニットコントロール基板上のLED1, 2の点滅回数で警報表示を確認できます。
(ページ12の“LED1, 2警報表示の見方”参照)

リモコン表示	警 報 内 容	
E 0 6	室外ユニットが室内ユニットからの受信不良	
E 1 2	自動アドレス開始禁止	
E 1 5	自動アドレス警報 (室内ユニット台数が少ない)	
E 1 6	自動アドレス警報 (室内ユニット台数が多い)	
E 2 0	自動アドレス中室内ユニット無し	
E 3 0	室外ユニットシリアル送信不良	
F 0 4	圧縮機吐出温度センサー異常	「DISCH」
F 0 6	室外機熱交換器 ガス (入口) 温度センサー異常	「EXG」
F 0 7	室外機熱交換器 液 (出口) 温度センサー異常	「EXL」
F 0 8	外気温度センサー異常	「TO」
F 1 2	圧縮機吸込温度センサー異常	「SCT」
F 1 6	高圧センサー異常、高負荷	「HPS」
F 1 7	低圧センサー異常	「LPS」
F 3 1	室外ユニット不揮発性メモリ (EEPROM) 異常	
H 0 1	HIC基板1次電流過電流	
H 0 3	圧縮機CTセンサー抜け	
H 0 5	圧縮機吐出温度センサー抜け	
H 0 6	低圧異常低下	
H 3 1	圧縮機HIC警報	
L 0 4	室外ユニットアドレスの重複設定	
L 0 5	室内ユニット優先重複 (優先室内ユニット用)	
L 0 6	室内ユニット優先重複 (優先でない室内ユニット用) と室外ユニット	
L 1 0	室外ユニット能力未設定	
L 1 8	四方弁コイル抜け、断線	
P 0 3	圧縮機吐出温度異常	
P 0 4	高圧スイッチ動作	
P 0 5	欠相検知、DC電圧チャージ不良	
P 1 4	O2センサー動作	
P 1 6	INV圧縮機2次電流過電流	
P 2 0	高負荷 (バルブ開け忘れなど)	
P 2 2	室外送風機異常 (IPM破壊、過電流、インバーター異常、DC送風機ロック、ホールIC欠相)	
P 2 7	低圧保護	
P 2 9	圧縮機配線欠相、DCCT不良などによる始動不良 (DC圧縮機起動不良)	

終端抵抗（プラグ）の調整が必要です。

正しく調整しないと、通信エラーになります。

- ・終端抵抗は、室外コントロール基板上、または オフィス・店舗エアコンの S-LINK アダプター（別売）の基板上にあります。
- ・集中制御機器、インターフェース、その他周辺機器を接続する場合は、終端抵抗（終端プラグ）の調整が必要です。
接続しない場合でも、ビル用マルチは、確認が必要です。
- ・この室内外操作線（S-LINK 配線）の終端抵抗は、1 冷媒系統の場合は、1 か所（基本配線図 例（1））、2 冷媒系統以上の場合は、2 か所を、有（ビル用マルチは [SHORT]（出荷時のまま）、S-LINK アダプターは [ON]）にします。（基本配線図 例（2））
2 か所有にする場所は、通信が安定するため、集中制御機器から、一番手前の室外ユニットと一番遠い室外ユニットの終端抵抗の2つを有（[ON], [SHORT]）にします。
上記2か所以外の冷媒系統は、無（ビル用マルチは [OPEN]、S-LINK アダプターは [OFF]（S-LINK アダプターは出荷時のまま））にしてください。
- ・3 か所以上、終端抵抗を有にするのは、禁止です。
- ・ビル用マルチとオフィス・店舗エアコンが混在しても、上記の設定になります。
- ・連結で使用するビル用マルチの室外ユニットの子ユニットは、室内外操作線に未接続のため、終端抵抗を無 [OPEN] にする必要はありません。

最終確認は、集中制御機器またはインターフェース・その他の周辺機器に接続されている室内外操作線（S-LINK 配線）で、線間抵抗をテスターで測定し、 $30\Omega \sim 120\Omega$ であることを確認してください。

抵抗値が範囲外の場合は、再度、終端抵抗を確認してください。

それでも範囲外の場合は、線に問題があります。

- ・結線は確実にしているか。
- ・被覆にキズや劣化がないか。
- ・線間および線と大地間を500V メガー（絶縁抵抗計）で、測定し、 $100M\Omega$ 以上あることを確認ください。
必ず計測時は、線の両端を端子台からはずしてください。はずさないと壊れます。
100M Ω 未満の場合は、新規に配線工事を行ってください。

